

2023年度 事業計画概要

特定非営利活動法人
日本環境倶楽部

1. 事業環境と活動方針

世界を一変させた新型コロナウイルス感染症拡大は、その発生から概ね3年が経過、各国の医療提供体制の強化、ワクチンの接種等の取り組みにより、種々の社会経済活動への制約・制限も緩和が進みました。一方、2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、強権主義・覇権主義国家と民主主義国家の対峙とエネルギーと経済の危機を顕在化させました。

このような混乱した世界情勢の中に於いても、持続可能な社会実現に向けた各層での議論は着実に進展しており、脱炭素活動の足元での停滞はあるものの、企業の取組についても、気候変動対応のみならず資源循環や生物多様性も統合した活動が期待されると共にその成果についても厳しい評価を受けるようになってまいりました。

2023年度の環境分野は、脱炭素・気候変動対応、資源循環、生物多様性保全それぞれの分野で大きな変化が訪れる年となることが予想されます。また、ガバナンスに於いてもサステナビリティ情報開示の世界標準がまとまり企業のESG戦略の真価がますます問われることが想像に難くありません。

日本環境倶楽部は、このような認識の下、会員皆様のご支援により、昨年にも増し、環境課題を中心とした社会課題の解決に資する、啓蒙、啓発、研究活動を推進してまいります。

2. 取り組む事業

(1) 環境セミナー事業；

気候変動、資源循環、生物多様性保全等のSDGs達成に資するセミナー・講演会を定期的に実施してまいります。開催にあたっては産官学より該当テーマのキーマンに講師をお願いするなど、時宜をとらえた内容とし一層の充実を図ってまいります。

(2) 研究会事業；

個別テーマを深耕していく研究会を開催します。テーマにより最適な開催方式を検討・採用し、ご参加頂く皆様の事業戦略検討や事業機会の探索の場を提供してまいります。

(3) 見学会事業；

三現主義の実践を通じ、経営や技術の向上・改善に資する、機会を提供します。

(4) その他；

上記事業を通じたネットワーク拡大及び他団体との連携強化を図ります。

3. 予算の概要

(千円)

摘要	2023年度 予算(A)	2022年度 決算見込み(B)	差異 (A)-(B)	2021年度 実績
経常収益	4,189	4,194	-5	3,779
経常費用 (内事業費)	4,061 (3,349)	3,938 (3,253)	+123 (+96)	3,313 (2,651)
経常収支	+128	256	-128	+466
期末正味財産	3,035	2,907	+128	2,651

詳細は別紙の活動予算書をご参照ください

-以上-

2023年度 活動予算書
2023年4月1日から2024年3月31日まで

特定非営利活動法人日本環境倶楽部

(単位:円)

科目	金額		
I. 経常収益			
1. 受取会費	4,152,000		
2. 受取寄附金	0		
3. 事業収益	37,000		
4. 雑収入	0		
経常収益計			4,189,000
II. 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費	866,640		
(2)その他経費			
交通費	15,920		
修繕費	0		
通信費	90,000		
地代・家賃	59,840		
消耗品費	118,400		
印刷費	207,840		
外注費	1,423,200		
レンタル・リース費	125,680		
講師謝金	313,600		
会議費	128,000		
その他経費計	2,482,480		
事業費計		3,349,120	
2. 管理費			
(1)人件費	216,660		
(2)その他経費			
交通費	3,980		
修繕費	0		
通信費	22,500		
地代・家賃	14,960		
消耗品費	29,600		
印刷費	1,960		
外注費	310,800		
レンタル・リース費	6,420		
図書費	3,000		
会議費	32,000		
他団体会費	40,400		
租税公課	3,000		
交際費	0		
雑費	26,600		
減価償却費	0		
その他経費計	495,220		
管理費計		711,880	
経常費用計			4,061,000
当期経常増減額			128,000
III. 経常外収益			
経常外収益計			0
IV. 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			128,000
法人税、住民税及び事業税			0
前期繰越正味財産額			2,907,352
次期繰り越正味財産額			3,035,352

(注)前期繰越正味財産額は本予算書策定時の見込です